

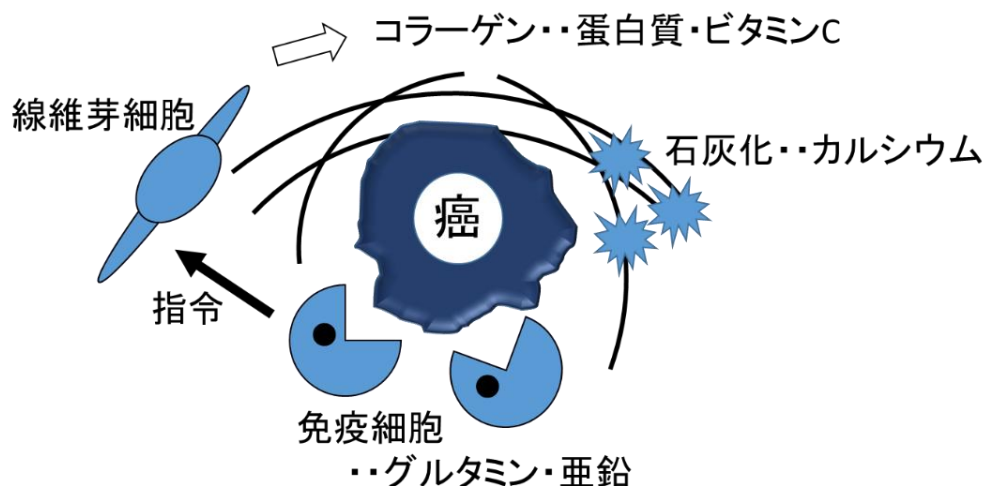
Dr.Horiguchi の健康コラム No.21(2015.8.24)

グルタミンと亜鉛について

癌と診断されたとき、最初に取り組むことは癌を小さくするための治療です。それは手術であったり、化学療法(抗がん剤治療、ホルモン療法含む)であったり、ときに放射線治療になります。しかしそれらの治療は必要ですが、癌を治す治療法ではありません。癌を治すのは、患者さん自身の体力です。もう少し言えば、“人には、病気を防ぐ力”が備わっています。これを自己防御力と言いますが、この力が長年の心身のストレスと過労、環境汚染、食事の偏りなどによって低下し、癌に至ったのです。したがって癌を治すときは、必ずこの自己防御力を回復しなければなりません。とりわけ重要な一つが“免疫力”です。正確には免疫バランスを良好に保つことです。

癌に対する免疫力の役割は二つあります。一つは癌そのものを縮小すること、もう一つは癌をコラーゲンによって封じ込めることです。これら免疫力の中心になっているのは、リンパ球と単球という免疫細胞たちです。したがって免疫細胞を元気にしなければ、免疫機能を発揮できません。

免疫細胞はグルタミンというアミノ酸をエネルギー源にしています。また亜鉛は免疫細胞が活動する時のスイッチとして不可欠です。一方、コラーゲンという線維によって癌をぐるぐる巻きにして封じ込めるとき、免疫細胞の活発な働きが不可欠です。つまり丈夫な免疫細胞の後押しによって線維芽細胞を活性化し、コラーゲンを作っているのです。ところでコラーゲンは蛋白質とビタミンCを材料にしています。そしてコラーゲンにところどころカルシウムが混じって、丈夫な癌封じ込め組織が完成します。



癌に対する免疫力の仕組み